

山寺の歴史と地域振興

ー 山寺で、つなぐ、結ぶ、接続する ー

大場 初暉、石井 陽向、後藤 颯太、黒柳 葉月、杉山 直史、伊藤 みやび、中里 愛佳（山形県立山形中央高等学校）

1. はじめに

私たちは山形中央高校の文理科学部に所属する山寺探究チームです。2023年春、たった2人の1年生（現2年生）が山寺の観光振興を目的に始めたのが「山寺探究」でした。2024年春には新入部員5名が入部し、合計7名で「山寺×出版」「山寺×和菓子」「山寺×ボードゲーム」「山寺×映像」の4つのプロジェクトをそれぞれ進めてきました。その中で私たちは、多くの地域の大人に支えられながら、地域の歴史を学ぶことができました。今回は4つのプロジェクトのうち「山寺×出版」「山寺×和菓子」を中心に、私たちの2年間の学びを紹介したいと思います。



2. 宝珠山立石寺について

山形市山寺の「宝珠山立石寺＝山寺」は貞観2年（860）、天台宗を開いた最澄の弟子、円仁（慈覚大師）によって創建され、一相坊円海が再興した歴史のある寺院です。延暦寺には最澄が灯したとされる「不滅の法灯」が今なお引き継がれていますが、織田信長の焼き討ちで一旦失われ、のち立石寺から引き継いでいます。このような歴史から、立石寺は「東北の比叡山」として有名になりました。

凝灰岩の岩盤に釈迦堂・開山堂・慈覚大師入定窟・根本中堂などが建ち並ぶ奥深く静かな景勝地です。

また、元禄2年（1689）夏に『奥の細道』の旅の途中に松尾芭蕉も訪れ「閑さや岩にしみ入る蟬の声」の名句を詠んでいます。



3. 乃し梅本舗 佐藤屋について

のし梅の歴史は古く、延宝七年（1679）の古俳諧集『富士石』にのし梅の句がみられます。一方、山形では江戸時代の文化年間（1810年代）に医者が長崎で中国人から習った気付薬をもとにのし梅を作ったとされてきました。ところが、2013年に発見された古文書により寛政11年（1799）には山形の御用菓子店にのし梅の製法が伝わっていたことが明らかになりました。以後、次第にのし梅は山形の名物となっていくようになります。出羽三山への参詣者は、途中の山形城下で必要な物資とともに栄養補給食としてののし梅を買い求めて出羽三山へ向かったことでしょう。また、手土産などとしてのし梅を使ったことも、山形市周辺の古文書から読み取れます。



4. 「山寺×出版」プロジェクト

1980年代、読者の選択によって物語の展開が変わる本「ゲームブック」が流行しました。私たちは「山寺探究」を始めた2023年春から山寺に10数回登り、その歴史や魅力を学び、地域の方々の協力のもとその内容を記録していきました。そして2024年の10月に観光客の選択によって何度も違う山寺を体験できる「山寺ゲームブック」を完成させました。同時に電子書籍版を公開し、書籍版を出版するためにクラウドファンディングを立ち上げ、24万3千円の資金調達に成功しています。資金をほぼ全額投入して書籍版「山寺ゲームブック」が完成しました。その内容には、私たちが学んだ山寺の歴史が詰め込まれています。現在、山寺の一部商店で販売中です。



5. 「山寺×和菓子」プロジェクト

2024年春、私たちは布施弥七京染店の布施将英さんと出会いました。布施さんは「江戸時代、出羽三山詣の際に参詣者が山形市で購入し、栄養補給食として食べていたのし梅をアレンジし、同じ信仰の山である山寺の新土産にできないか」という思いを私たちにぶつけてきました。その後、布施さんから山形市の和菓子の老舗、乃し梅本舗佐藤屋の佐藤慎太郎さんを紹介していただき、山寺の新土産開発のために協働することが決まりました。何度も佐藤屋さんと企画会議を開き、試行錯誤の末にのし梅の琥珀糖「宝月（ほづき）のかげら」の試作品を完成させることができました。「宝珠山立石寺にかかる月のかげら」を連想させる菓子の色や形が命名の由来になっています。外はカリッ、中はトロツとしたイメージ通りの仕上がりになりました。



6. まとめと考察

私たちは「山寺探究」を通して、山寺のことを本気で考えている大人と多数協働してきました。その支えもあり、10月19、20日には「山寺マルシェ」に出展し、「山寺×出版」「山寺×和菓子」「山寺×ボードゲーム」「山寺×映像」の4つのプロジェクトを山寺でお披露目し、大きな反響を得ました。その後、活動のまとめとして山寺観光協会の遠藤正明さんにインタビューを行いました。その際、遠藤さんは「不易流行を見極めていかないと地域がなくなってしまう」を仰っていました。その後、私たちはその言葉の意味を話し合い、地域の方が担うべきなのが「不易＝変わらないもの」であり、私たち高校生が担うべきなのが「流行＝変わっていくもの」なのではないかとの結論に至りました。今後も私たちは、山寺の「流行」を見据え、行動し続けたいと思います。



参考文献

- ・山口博之(2021)『山寺立石寺 霊場の歴史と信仰』吉川弘文館。
- ・乃し梅本舗 佐藤屋(2022)『のし梅の歴史』乃し梅本舗 佐藤屋。

電子書籍版山寺ゲームブック→

